

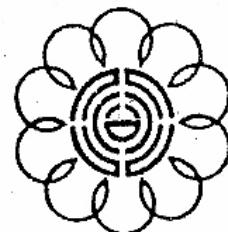
平成9年度

第29回 越谷市民文化祭

平成9年11月21日(金)~24日(月)

越谷市郷土研究会展示部門出品紹介

於 越谷コミュニティセンター 大ホールホワイエ



◇周りの10個の輪は、昭和29年11月3日に合併した十町村である

二町八ヶ村（「越谷町」の誕生）をあらわす。

十町村とは、越ヶ谷町・大沢町・桜井村・新方村・増林村・大袋村・
萩島村・出羽村・蒲生村・大相模村をさす。

なお、市に昇格したのが昭和33年11月3日。

◇中央部周りのデザインは、カタカナの「コ」を4個集めたもの。

つまり、越谷の「越」（「コ4」）を意味する。

◇中心部のデザインは越谷の「谷」の文字を図案化したものである。

第29回 市民文化祭の 越谷市郷土研究会展示作品リスト

| 番号 | 題名 | | 頁 | 出品者名 | 住所 |
|----------|------------------|--|----------|-------|--------|
| 一 | 旧三野宮・大道・大竹村の石仏類 | | 15 14 | 加藤 幸一 | 春日部市大枝 |
| 二 | 滝口土橋架け替え訴訟の内済 | | 15 | 鈴木 秀俊 | 宮本町二丁目 |
| 三 | 御殿町の建長の板碑 | | 16 | 鈴木 稔雄 | 赤山町二丁目 |
| 四 | 越谷出身の江戸力持 三野富卯之助 | | 17 | 高崎 力 | 平 方 |
| 五 | 普門品供養の碑 | | | 高橋 清 | 新川町三丁目 |
| 六 | 荒川・熊谷築堤へ越谷の寄進 | | | 谷岡 隆夫 | 宮本町三丁目 |
| 七 | 大沢の照光院 | | 20 19 | 堤竹 宏吉 | 宮本町五丁目 |
| 八 | 追跡・将軍家光の靈柩日光へ葬送 | | 22 23 | 堀切 祥民 | 北越谷一丁目 |
| 九 | 越谷市内の狛犬 | | | 宮川 進 | |
| 24 25 | 狛犬調査データ | | | | |

※右の展示作品や入会に関する問い合わせ先は、

越谷市郷土研究会の谷岡隆夫（当会会長・☎621-7527）までお願いします。

※なお、21頁には、当会幹事の宮川進氏の『広報こしがや』の記事を載せました。

一 旧三野宮・大道・大竹村の石仏類

加藤 幸一

越谷の信仰や生活などを解説する貴重な石仏類が最近開発の波にのって現れつつある。そこで今、うちに詳細に、かつ正確に記録し残しておきたいと考え、今年は

旧三野宮村・大道村・大竹村の江戸期の石仏類について調査した。詳細については三野宮の「一乘院」に資料を置かせていただくのでご請求(無料)願いたい。

I 口二ノ町野古田村

(1) 一乘院

山房は稻荷山という。参道入り口付近北西側奥に稻荷社があるのはそのためである。この稻荷社そばに二基の石塔がある。加賀國の白山信仰を示す『白山蘊現文字塔』(図2)と紀伊國の長者が天長九年(八三一)の子歳の十月子日子刻に生んだ子であるとの信仰のある『子聖瘤現文字塔』(図3)がある。

また本堂向かって右側の入り口付近には不動堂があり、その堂中に『不動明王三尊像』(図1)が安置される。かつてこの地でも成田山の不動信仰が盛んであったことがうかがえる。

申塔(図27)がある。

(5) 森田家(三野宮一九四)入口

天保十年(一八三九)の庚申塔がある。向かって左側面を見ると、この地は三野宮村の高砂組という小村落に属しているのがわかる。

(6) 森田家(三野宮一九二) 郡内

図30の「妙見大菩薩」と刻まれた文政四年(一八二二)や「妙見宮」と刻まれた年代不詳の石塔がある。かつてはこのあたりでは妙見信仰が熱心であったことがうかがえる。

(7) 森田家(三野宮四四七)そば橋脇
庚申塔(図31と32)や地蔵尊を浮き彫りにした石橋供養塔(図33)が見られる。なお、図32の庚申塔は神道系の猿田彦の神を祭る。

(8) 榎本家(三野宮一九一二) 祭祀地

このあたりは次に紹介する須賀家とともに三野宮村の新田の地である。

図34の「稻荷大明神文字塔」の向かって左側面には「幾歳や五穀の種子を稲祭り」との歌が刻まれている。また八坂神社(祇園社)の神である牛頭天王の石塔(図35)や屋敷を守る土公神の石塔(図36)がある。

(9) 須賀家(三野宮一九七) 前の新方川

参道の左側に、庚申塔、普門品供養塔、出羽三山供養塔があるが、中でも「六十六部回国塔」(図9)は元文二年(一七三七)に相模國の三浦郡に住む女性が法華經をわが國の六十六カ国すべてに奉納しようと巡り回る途中でこの地で亡くなつたが、その回国記念のために建てたものである。さらに本堂近くにも貴重な石仏類がみられる(図12から16)。

(2) 三野宮香取神社
境内には、北斗七星(北極星)を信仰の対象とした秩父の妙見信仰と筑波山の信仰の二つの信仰を合わせ持つ図18の石塔がある。また、和歌山県にある本宮の熊野坐神社、新宮の熊野速玉神社、那智の熊野那智神社の熊野三山信仰の「熊野三山文字塔」もある。

(3) 坂巻家(三野宮一四六) 南西の路傍
ここには、六十六部回国塔(図24)や庚申塔(図25と26)がある。

(4) 森田家(三野宮一四八) 前の路傍
元文五年(一七四〇)の「いわつき道」、「ぢおんじ道」と刻まれた道しるべの觀音菩薩像石仏(図28)と庚申塔(野道)と刻まれてある。

II 旧大道・大竹村

(1) 竹屋商店周辺路傍

その中でも幕末の嘉永五年に建てられた道しるべの石塔(図41)が貴重である。碑面には「手引石」という文字が見られ、「東かすかべ一り半、西のしま廿下、西じおんじ二り」、向かって左側面には、「北の道(野道)」と刻まれている。

(2) 「寮」の墓地南の香取社

一風変わった庚申塔が一基ある(図4)。正面は腕が

六本ある青面金剛像が浮き彫りで刻まれているが、その他に向かって右側面に「青面金剛」と文字が大きく刻まれ、左側面にも「庚申塔」と文字が大きく刻まれている。

(3) 鈴木家(大道一〇八) 郡内

また道路の反対側の元荒川の土手には、貴重な二基の道しるべの石塔がある。図2は越ヶ谷道と間久里道を示し、図3は越ヶ谷道、慈恩寺道、間久里道を示している。

(4) 川島家(大道一六一) そば用水路

天保十五年(一八四四)に鶴平左衛門が建てた「馬頭観音文字塔」(図6)がある。

(5) 大道香取神社
「猿田彦大神」と刻まれた庚申塔（図7）や「庚申」と刻まれた庚申塔（図8）や明治以降の石塔が幾つか見られる。

(6) 川原家（大道一八四）前の路傍
赤塗りの石製鳥居のそばに「土荒神」の石塔（図9）がある。土公神をさすのである。

(7) 八坂神社そば路傍
道しるべを兼ねた大きな庚申塔（図10）がある。正面は「庚申塔」と文字が刻まれ、向かって右側面には北は野道を示し、右側面には東は間久里、南は岩棚を示している。

(8) 八坂神社

ここには学問の神様である菅原道真を崇める「天神文字塔」（図11）がある。天神様の石塔は神社などによく見られる。

(9) 川島家（大道二一一）路傍

主尊に青面金剛の梵字「ウーリン」が大きく刻まれた珍しい庚申塔（図13）である。正面台石には庚申塔には付き物の三猿が見られる。

(10) 小林家（大道一四）路傍

大道の新田の地にある小林家は屋号を「觀音經どん」と代々呼ばれているが、それは小林家の先祖（市右衛門）

(2) 太子堂（東養寺跡地）

この地はかつては東養寺があつたところで、その境内には太子堂もあつた。太子堂とは聖徳太子を祭るお堂のことである。現在は東養寺の本堂はなく、太子堂のみとなつてている。

太子堂の墓地の南側道路脇には、道しるべを兼ねた背の高い庚申塔（図11）がある。正面には「南北のミカベ」、向かって右側面には「東まくり半道、かすかへり」、左側面には「西のじま半道、いわつき二里、北のミカベ（野道）」と刻まれている。境内には、庚申塔をはじめ、さまざまな石仏類が一塊になつて建てられてゐる。

その中で図13の「十三仏塔」は、十三仏信仰としての十三人の仏様の梵字が刻まれている。十三仏信仰とは、十三仏をそれぞれの忌日に本尊として死者の追善供養をするものである。この十三仏信仰は現代でもみられ、人が死亡してから七日目の初七日の法事から始まって、数えで三十三年目の三十三回忌までの計十三回の法事にそれが本尊として配当されている。碑面の梵字は次の通りである。

パン　　ペイ　　ユ　　カーン
タラーク　ウーン　サ　　カ　　バク
キリーグ　サク　　アン　　マン

が観音經（普門品）を熱心に信仰したからである。図14の文政六年（一八二三）に建てた「普門品供養塔」はそのことを物語る貴重な石塔といえる。

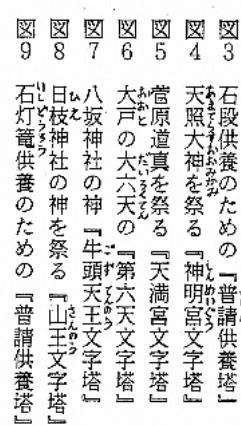
(11) 大道新田稻荷神社

ここには庚申塔をはじめ、多くの石仏類が整然と並んで建てられている。図17と図22は普門品供養も兼ねた珍しい庚申塔である。

III 旧大竹村

(1) 大竹香取神社

入口正面の路傍には、猿田彦の庚申塔（図1）が見られる。参道を入ると、左側の参道沿いに多くの石塔が並んでいる。次の通り。



以上の梵字を仏の名前で示すと次の通り。
大日　　薬師　　阿弥陀　　虚空藏　　阿闍梨　　觀音　　地藏　　不動　　釋迦
勢至　　普賢　　文殊

図19は、旧日寺院名の文字が刻まれた石塔で、正式名が「太子山龍藏院東養寺」とわかる。

(3) 大袋公民館そば用水路道端
道しるべを兼ねた普門品供養塔（図22）が建つていて、石塔正面の碑面には「向いわづき」、向かって右側面は「南北のミカベ」、左側面は「東まく」と刻まれている。

(4) 向佐家（大竹一五三）邸内

この向佐家は屋号が「元名主」と呼ばれる家である。江戸時代に名主を経験した家柄と伝えられている。

邸内に「弁財天文字塔」（図23）がある。この石塔は現在地の真南十五メートルの地点にあった。その東側隣に小さな池があったが、現在はなく新しい道路となつていて、有田商店前の道路につながる。そしてこの古くからある道路はさらに北上するのである。

(2) 東養寺(太子堂)

地元の人からは「太子堂」と呼ばれ親しまれている東養寺はかつては境内地に太子堂があつたが、現在は本堂のみとなっている。太子堂とは聖徳太子を祭るお堂のことである。

東養寺の墓地の南側道路脇には、道しるべを兼ねた背の高い庚申塔(図11)がある。正面には「東 まくり半道、かすかへ」、向かって右側面には「東 まくり半道、いわつき二里、二り」、左側面には「西 のしま半道、いわつき二里、北 のみち(野道)」と刻まれている。

境内には、庚申塔をはじめ、さまざまな石仏類が一塊になって建てられている。

その中で図13の『十三仏塔』は、十三仏信仰としての十三人の仏様の梵字が刻まれている。十三仏信仰とは、十三仏をそれぞれの忌日に本尊として死者の追善供養をするものである。この十三仏信仰は現代でもみられ、人が死亡してから七日目の初七日の法事から始まって、数えで三十三年目の三十三回忌までの計十三回の法事にそれが本尊として配当されている。碑面の梵字は次の通りである。

パン ベイ
タラーグ ウーン サ
キリーグ サク カ
アン マン バク

以上の梵字を仏の名前で示すと次の通り。

大日 薬師 弥勒 不動
阿闍 観音 地藏 慈迦
虚空藏 阿弥陀 勢至 普賢 文殊

図19は、寺院名の文字が刻まれた石塔で、この地が「太子山龍藏院東養寺」とわかる。

(3) 大袋公民館そば用水路道端石塔正面の碑面には「向 いわつき□」、向かって右側面は「南 こしがや」、左側面は「東 まく□」と刻まれている。

(4) 向佐家(大竹一五三)邸内

ここに向佐家は屋号が「元名主」と呼ばれる家である。江戸時代に名主を経験した家柄と伝えられている。

邸内に「井財天文字塔」(図23)がある。この石塔は現在地の真南十五メートルの地点にあった。その東側隣に小さな池があったが、現在はなく新しい道路となっている。

旧道路は向佐家の垣根にそってその名残が今でもある。この旧道路はさらに大袋小学校の校庭南東側を突き抜け、恩間十三番地前の道路につながる。そしてこの古くからある道路はさらに北上するのである。



10. 出羽三山供養塔



11. 青面金剛像庚申塔



12. 宝篋印塔



13. 馬頭觀音像



14. 丸彫り地藏菩薩像



15. 光明真言供養塔



16. 弘法大師一千年御忌供養塔



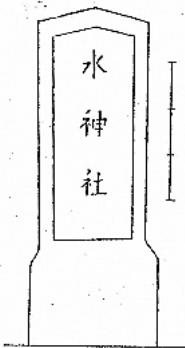
17. 天神像



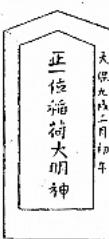
18. 妙見菩薩・筑波山両権現文字塔



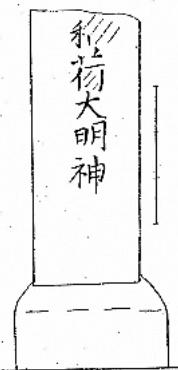
19. 水神文字塔



20. 稲荷大明神文字塔



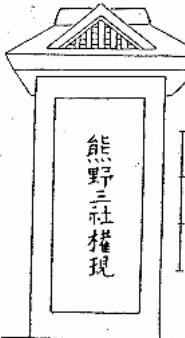
21. 稲荷大明神文字塔



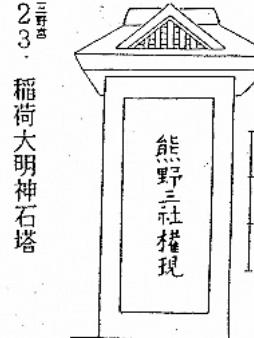
24. 六十六部回国塔



23. 稲荷大明神石塔



22. 熊野三山文字塔



26. 青面金剛像庚申塔



25. 青面金剛像庚申塔



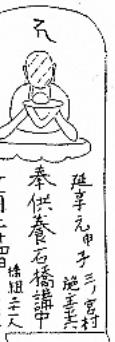
28 道標をかねた觀音菩薩像



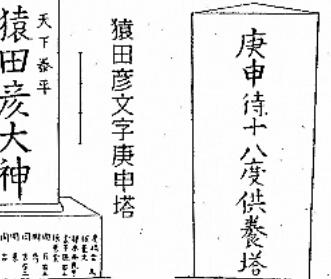
29 青面金剛像庚申塔



30 妙見菩薩文字塔



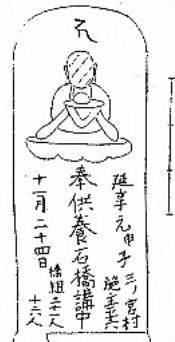
31 文字庚申塔



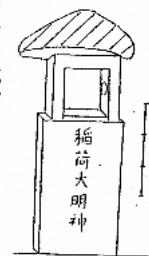
32 猿田彦文字庚申塔



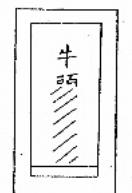
33 石橋供養塔



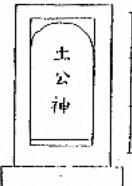
34 稲荷大明神石塔



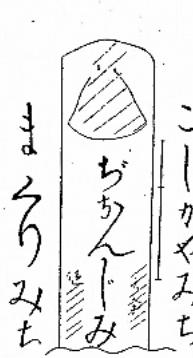
35 牛頭天王文字塔



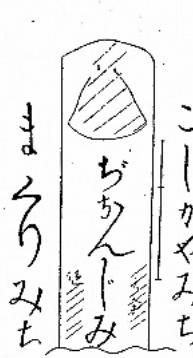
36 土公神文字塔



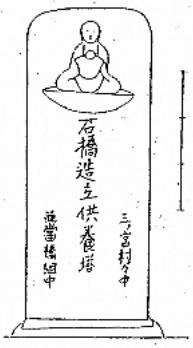
37 文字庚申塔



38 道標石塔



39 道標石塔



40 地藏菩薩像



41 青面金剛像庚申塔

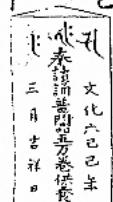


大道村講中

2 道標を兼ねた普門品供養塔



30 よくり二十九
まくろみち



5 荒神文字塔



4 青面金剛像庚申塔



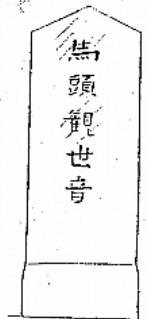
1 大道
地藏菩薩像



39

40

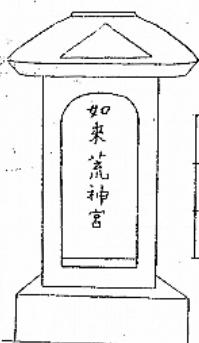
6. 馬頭觀音文字塔



9. 土荒神文字塔



12. 荒神文字塔



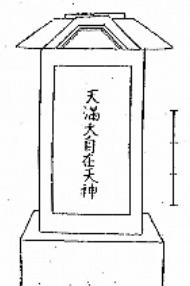
7. 猿田彥文字庚申塔



8. 文字庚申塔



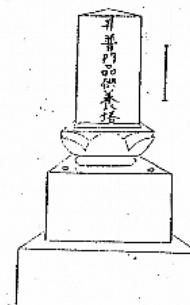
11. 天神文字塔



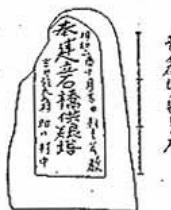
10. 道標を兼ねた文字庚申塔
天保11年2月吉日



14. 普門品供養塔



15. 道標を兼ねた石橋供養塔



18. 文字庚申塔



16. 青面金剛像庚申塔



19. 文字庚申塔



17. 普門品供養付き庚申塔



20. 文字庚申塔



1. 猿田彥文字庚申塔
旧大竹村



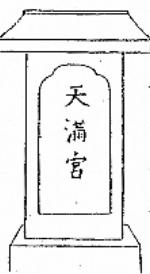
22. 文字庚申・普門品供養塔



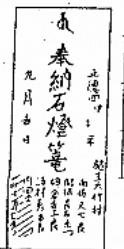
八幡宮文字塔



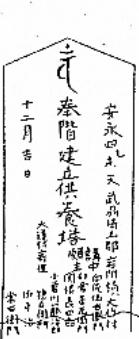
天満宮文字塔



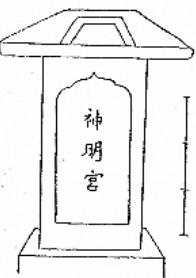
普請供養塔



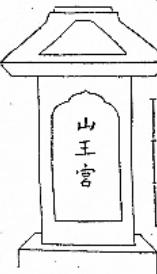
普請供養塔



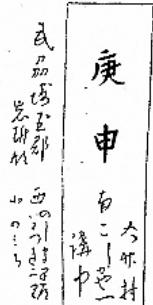
神明宮文字塔



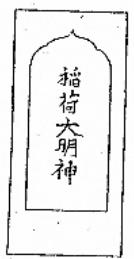
山王文字塔



道標付き文字庚申塔



稻荷文字塔



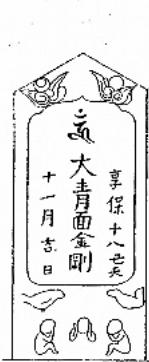
六十六部回国塔



十三仏塔



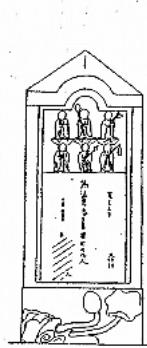
文字庚申塔



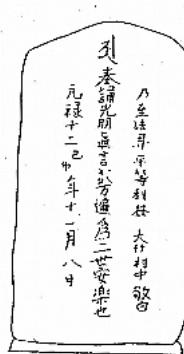
青面金剛像庚申塔



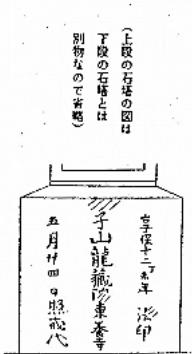
一石六地藏菩薩塔



光明真言供養塔



寺院名文字入り石塔



青面金剛像庚申塔



2
1 青面金剛像庚申塔



2
2

道標付き普門品供養塔

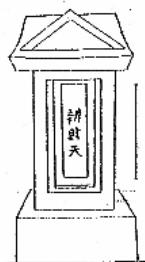
文化八
角柱

向
い
づ
け

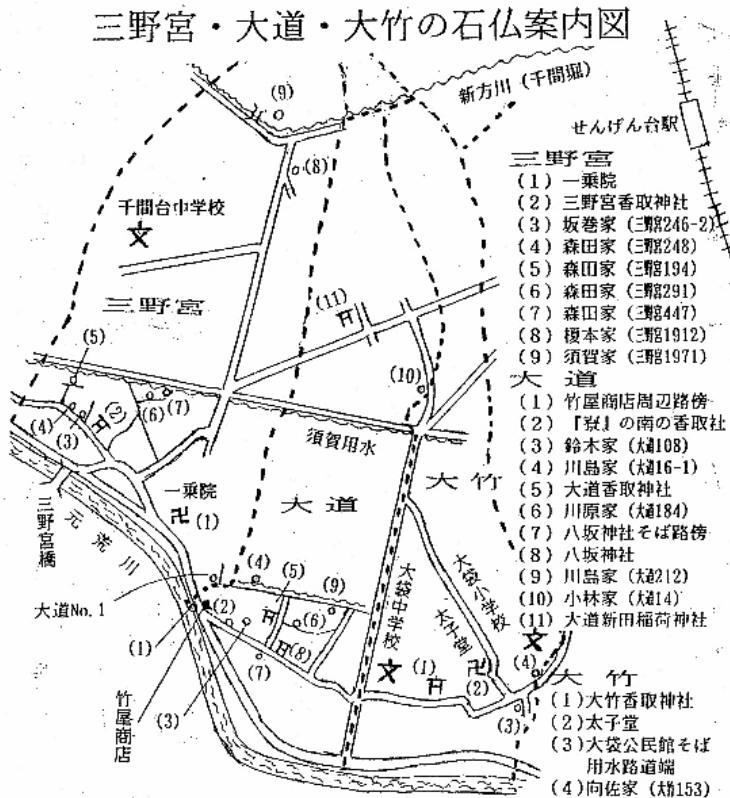
南
こ
り
や

2
3

弁財天文字塔



三野宮・大道・大竹の石仏案内図



二 滝口土橋架け替え訴訟の内済（和解）

鈴木 秀俊

この文書は明和四年（一七六七）亥八月、滝口土橋架け替え訴訟が内済（和解）になり、伊奈備前守地方役所へ差し出した訴訟人・相手方・取扱人連印の滝口証文控えである。

滝口土橋（現辰の口橋）は大間野村（大間野町）地内、伊奈郡代赤山陣屋と日光道中を繋ぐ赤山街道が新川を渡る所に架けられた重要な橋であった。

文書によると、例年、長さ六間、幅九尺の滝口土橋御普請（公費）の際は、組合六ヶ村並びに総百姓が人足費用を高割で差し出し、普請をしたが、この度は名主年寄三人が村方へ話なく、請負い御普請にしたので、自普請（村費）場所の仕乗りが乱れると、大間野村百姓総代二名が出訴した。

役所に呼ばれた名主年寄方の答えは、橋請負の際、組合六ヶ村と村方へ掛け合ったが田植えの最中でしたので、同村百姓二名が引き受け御普請皆出来ましたと申し上げ吟味中、江戸宿と下間久里村名主が仲裁に入り、双方話し合い納得の上、次の通り内済（和解）した。

一、滝口土橋架け替え修復の願いに江戸へ行く費用は、名主方で一生のうち差し出し村方に出錢させないこと。

二、滝口土橋御普請の際は、先例の通り人足諸費用等村方から差し出すこと。また組合の内、二ヶ村の離別願について大間野村にお尋ね吟味されば名主年寄方で引き受け、村方に一切負担をかけない。

残り四ヶ村から出た場合も同様ときまつた。

（伊奈家は二五年後に廃絶する）

三 御殿町の建長の板碑

鉢木種雄

市内御殿町の元荒川畔に、越谷市域で最古・最大の板碑がある。

建長元年（一二四九）の銘があり、平成十一年には造立七五〇年になる。

・場所 越谷市御殿町三の八付近
・形状 高さ一五五cm 上幅五三cm 下幅六三cm 厚さ九cm
・刻銘 阿弥陀如来の禮子 建長元年己酉（業研影り）



下部は欠けており、顕主・顕文は不明

全長二二m以上と推測される。

・文化財 越谷市有形文化財指定 昭和四五年三月二十五日

越谷市域の板碑の幅の平均は二〇cm前後であるから、これほどの板碑をつくる経済的基礎をもつ豪族が、この地に住んでいたことがわかる。日本最古の板碑が嘉禄三年（一二二七）で、建長元年の板碑は、それより二二年後に造立された初期板碑である。

板碑は、鎌倉期から戦国期までの四百年間に亘り現存している。死者の冥福のため、あるいは自分の死後の菩提（逆修）のために立てられた。

この岩は荒川上流の秩父地方におおく産し、加工しやすい。

御殿町の板碑は、荒川の水運ではこぼれてきたものであろう。

武藏型板碑は、現在約四万基あり、埼玉県内では約二万基をかぞえる。越谷市域では一三四基（昭和五十年）が確認されている。板碑は、中世の仏教信仰、豪族や武士の展開、経済状況、河川交通のあり方をさぐる資料の一つである。

四 越谷出身の江戸力持 三野宮卯之助

高岡崎

力

江戸時代の中ごろより若い人の間で「力くらべ」が流行し、神社祭礼日には村大会まで開催された。

その時使われた「力石」は今に伝えられている。

市内で最も古い力石は、東越谷の香取神社にある元禄十三年（一七〇〇）、一番新しいのは蒲生久伊豆神社の大正八年（一九一九）である。

刻字のある「切付力石」は、総数三十七箇所以上、七十二基以上になっている。



江戸浅草觀音境内における三ノ宮卯之助の興行広告
(江戸開船大学図書館蔵)



天保七年（一八三六年）の力持帶付
闕松の側に「三ノ宮 卯之助力」
の文字が見られる

江戸時代の中ごろより若い人の間で「力くらべ」が流行し、神社祭礼日には村大会まで開催された。その時使われた「力石」は今に伝えられている。

一方、力のある人が「力持」を見世物として公演し、木戸錢をとるようになつた。卯之助はこの頃より力持仲間を集めて一座をつくり、力持見世物興行をはじめた。

彼が道々の神社仏閣に奉納した力石をたどっていくと、一座の興行ルートが判明する。現時点では遠く兵庫県姫路市まで確認されている。

「卯之助」の刻名のある力石は、越谷市六基、横浜市五基。

岩槻市・川崎市・姫路市各二基。川口市・戸田市・桶川市・木更津市・長野

県下諏訪町各一基。市内の力石は後世へ大切に引き継ぐよう、ご協力を願いします。

幻の攘夷祈祷 嘉永三年 霜月

普門品供養の碑

吉岡 植桐

達用

この碑は越巻村（現新川町一丁目）万歳院（七左七丁目觀照院の末寺）にある。建立は嘉永三年霜月（十一月）である。

嘉永三年（一八五〇）四月八日、孝明天皇の朝廷は、七社七寺に勅を下し、外患・攘夷を祈祷させた。朝廷の夷狄に対する積極的な行動であった。当時、異国船がしばしば来日し、開港開港をもとめ、近海の測量もはじめた。それらの異国船を追い払うための祈祷である。

本山大和の長谷寺からの下命により、真言宗豊山派の觀照院に祈祷の要請があつたものと察せられる。

普門品とは、妙法蓮華經觀世音菩薩普門品第二十五で、世にいう「觀音經」で独特な太鼓の音にあわせて誦誦する。当時の様子は、越谷市史（一）の第一〇章宗教生活・普門品供養の項に記されている。

寛政九年（一七九七）の模様は次のようだ。

「越巻丸の内と中新田の惣若者一同が觀音經を取り立て、毎月一回、万歳院觀音堂にて誦誦するようになった。腰弁当で朝からはじめ、一人で三十三巻完。これを誦誦した」とある。

それから五十年後の嘉永年間の觀音經祈祷が同じであったか、當時を知るものはない。

この碑の年号と時代をみると攘夷祈祷に関係があったように思われる。当代万歳院には、僧が常住していたと伝えられる。人物は不明である。碑には名前はない。自然石のこの大きな碑を建てるには、相当な資財を必要としたであろう。

一五〇年前の歴史に埋もれた過去は幻のごとしである。

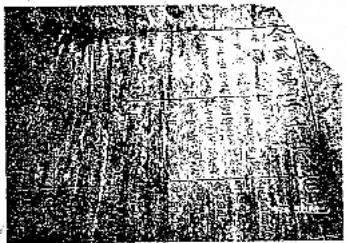
参考文献　・越谷市史（一）通史上　越谷市役所発行　・読める年表　江戸篇II　自由国民社発行



（新川町・満歲院跡）



熊谷築堤記念碑



記念碑裏面

六 荒川・熊谷築堤へ越谷の寄進

（谷岡 陸士大）

越谷上流の利根川と荒川は、大雨のとき、むかしから悩みの種であった。
安政六年（一八五九）と元治元年（一八六四）、熊谷の堤防が切れ、下流
は大きな被害があった。

明治四年（一八七二）度重なる水害のため政府資金と関係村民の寄進によ
り、熊谷に築堤のはこびとなつた。

明治八年（一八七八）三月より五年にわたり工事が行われ、長さ一万九二
四七巾の堤防が完成した。

費用　二万三二四八円六銭

内訳

一万四九二〇円四四銭七厘

組合出金

八三一七円六一銭三厘

助け合い出金

右の助け合い出金は地元だけでなく、遠く荒川下流の越谷や草加などから高額の寄進をした。荒川の水害が、いかに下流の村々をおびやかしていったかの証である。

熊谷築堤記念碑は、熊谷市久下、荒川土手の権八地蔵前にある。碑には県令白根多助の撰文と、裏面には協賛者の銘がある。

| | | | |
|-----|--------|-----|--------|
| 西方村 | 三六円十六銭 | 蒲生村 | 四二円〇五銭 |
| 荻島村 | 三〇円八五銭 | 増林村 | 四四円三〇銭 |
| 草加宿 | 一〇〇円 | 柏壁宿 | 六八円四八銭 |

（関係町村の一部を抜粋）

七 大沢町の照光院

桝尾竹

宏士口

所在 越谷市大沢町二丁目四ノ六

本堂 庫裏 山門 鐘樓 境内四七一坪

真言宗 智山派

・本尊 阿弥陀如来

・所在 当寺の山門前には、昭和五十二年・開校百年事業実行委員会建立の

「大沢小学校創設」の碑がある。

・行事 施餓鬼会勤修（八月十八日）春秋彼岸回向 除夜の鐘

・由緒 梅華山と号す、安永六年（一七七七）の創立と推定



福井猶貞墓



大沢小学校創設碑

明治五年（一八七二）学制施行により寺子屋・私塾全面廢止。

明治六年（一八七三）当寺に啓明学校が開設。

明治九年（一八七六）迎賓院に移設。

明治十年（一八七七）大沢・大房・大林の一町二ヶ村による大沢小学

校が当寺に開校。

明治二二年（一八八九）大房は大袋学校に編入。

明和六年（一七六九）生、文政五年（一八二二）二月没、五四才。

越谷宿における優れた文化人で「越ヶ谷瓜の蔓」「大沢猫の爪」など、多くの本隣記録や地誌類を書き残している。

これらは、越谷宿の発展を願う郷土愛の所産であろう。

三、筆子などの辞世句碑（墓石）

○降る雪は面白いもの死出の旅

○居こころのよき学の戸や林（秋）の風

当寺は、江戸文化の影響を受けた宿場町大沢の風流を感じさせる寺である。

参考文献 越谷市史（一）通史上・全国寺院名鑑・ご住職の指南による

○桐一葉無理いふましとおもひけり

○かせそよくうちハヽいらすひとねいり



一緒に千数百年前のロマンに浸ってもらえば。さきたま出版会発行。B6判。176頁。1500円（税別）。

「古代ロマン」を追い求める

休日を利用して県内の古

墳丘を選び、行き方や周

辺の見どころを調査した

まさに「足で書いた」本。

本を作りたいと思つてか

ら10年、実際に歩き始めて

から10年かかりました。古

代の人やその生活が想像

ができるところをわざわざ

ある古墳はタイムカプ

ー・コンタクター。

平成9年
10月4日 土曜日

朝日新聞

26

家族からは「またそんなモノ拾ってきて」とあきらめがちにからかわれている。銀行員の宮川進さん（58）＝写真＝は、越谷市に引っ越して14年。「古代ロマン」を追い求め、休日は県内各地の畠やあぜ道、古墳を散策し「土器」探しに熱を上げている。

「大発見では」と専門家に見せると、土管や長靴などの泥の塊だったこともある。拾った土器は、整理ダンス5つ分になった。

「どんな顔して何を食べ、何に苦労したんだろう」。素人なりの想像力を働かせ、県内の古墳70基の足跡をガイドブック風の本「さいたま古墳めぐり」にまとめた。「えっ、あの裏山が古墳だったの、ということが多いはず。

古墳の人やその生活が想像できるところをわざわざある古墳はタイムカプ

ー・コンタクター。

セルなんです」

14年ほど前に越谷へ。それまでは軽井沢が多く、どちらの好みか、たった。

14年ほど前に越谷へ。それまでは軽井

沢が多く、どちら

の好みか、たった。

「すっと住むなれば誰も知りたい」と思つて調べるうちに越谷への興味が深まりました。これがからも、越谷の本を作りたいと思つてから10年かかりました。古

代の人やその生活が想像

できるところをわざわざ

ある古墳はタイムカプ

ー・コンタクター。

八 追跡・將軍家光の靈柩日光へ葬送される

■ 墓切 桂氏

「去りとては 世をうき渡る 舟小舟 おなじ思ひの 品かはるとも」



日光・大猷院廟

家康の孫家光は、幼名も同じ竹千代という。乳母春日局に養育され、元服後に家光を名のった。

実母お江は弟国松（徳川忠長）を偏愛し、周囲では国松が將軍を継ぐのではないかと懸念したが、祖父家康のひとことで家光に世継ぎの地位が確定した。以後、家光は家康崇拜の念を生涯抱いた。

元和九年（一六二三）、將軍職を継いだ。父秀忠が没したのち、紫衣事件で配流された沢庵宗彭の赦免をはじめ、鎖国の推進、参勤交代の制度化、諸法令の整備など武断政治を確立した。

また一方では、日光東照宮大造営事業をなしとげた。

慶安四年（一六五二）四月廿日、江戸城で病に没した。齢四八。

法号大猷院。この日、堀田正盛、阿部重次（岩瀬城主）らが相次

いで殉死する。

廿六日 卯の刻、家光の遺骸は遺言により、酒井忠勝ら六名を筆頭に数百名の行列を組み、寛永寺を出発。

日光街道・千住、草加、越谷を経て柏壁・最勝院に一泊。

廿七日 幸手、栗橋から古河を通り、間々田の龍昌寺に泊まる。

廿八日 小山、壬生から日光西街道松原、櫻木から鹿沼・薬王寺に一泊。

廿九日 今市を経て、日光山の坂宮に靈柩は葬送された。

私は去る七月、猛暑の中、葬送途中の各寺を探訪。東叡山寛永寺から大猷院までのルートを追跡した。

各寺での心温かい人々との出会いは、夏の楽しい想い出となつた。



將軍・家光葬送の道順

日光

4月29日着

日光山坂宮

今市

鹿沼

4月28日泊

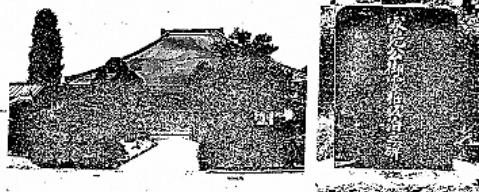


藥王寺

壬生

小山

4月27日泊



日光山主守

柏壁

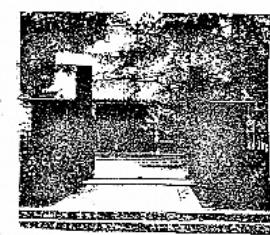
4月26日泊

日光山勝勝院

江戸

慶安4年(1651)
4月26日発

東叡山寛永寺



九 越谷市内の狛犬

「越谷の狛犬」調査グループ一

○池田仁○岩瀬静江○加藤富士代○菅波昌夫○高山はつ○武井福三郎○竹谷フミ子
○中道康○中村林也○野村勝八○林和江○宮川進○森田三郎○山口美津江○山崎政隆

「狛犬」がいま、話題になっています。京都府宇治市のねずでつや氏が同市内の狛犬の研究で「紫式部市民文化賞」を受けられたり、落語家の三遊亭円丈氏も狛犬を研究、「THE 狛犬！コレクション」という本を出されたりで、ちょっととしたブームです。

ところで、わがまち・越谷市には、狛犬は何匹いるのでしょうか。

それが気になって、夜も眠れなくなつた私たち「調査グループ」は手わけして市内を探しまわりました。そして、見付けた狛犬は合計39匹でした。

市内の全神社を調査しましたが、狛犬のないところが多く、グループメンバーの半分は自分の担当したところで一匹も見付けられませんでした。しかし、こういう調査もあって「39匹」が確定したことと明記したいと思います。

出来たて、ホヤホヤの、まだ、湯気のたつているような狛犬もありますが、一番古いのは、越谷久伊豆神社の享保7年のもの。1722年ですから、275年も前です。日本最古の石造狛犬は奈良市・東大寺にある建久7(1196)年のもの。参道にある石造狛犬で東日本最古は寛永13(1636)年の日光東照宮のもの。これ以後、参道に狛犬を寄贈する風習ができたともいわれています。西日本での参道にある石造狛犬は大阪の住吉大社、元文元(1736)年のものが最古のようで、越谷市のものも、けっこう自慢できるのではないかでしょうか。

また、大沢香取神社は3組も狛犬がおり、しかも、それ古いものばかりで、「さすが」です。

そして、おまけに、「御神燈」を支える狛犬が一匹います。三遊亭円丈氏の本によると、京都伏見稻荷神社には二匹のきつねで支えられた「御神燈」があるが、この対戦は大沢香取神社の勝ち。理由は、自分は一人芸の落語家、二人でやる漫才は嫌いだからとのことです。

詳細な研究はこれからとして、とりあえず、越谷市の狛犬、「現在39匹」とのご報告をいたします。

| 社寺名 | 所在地 | 狛犬の製作年 | その他 | 調査者 |
|--------|-----------|--------------------------------|-------|-----|
| 久伊豆神社 | 川柳町2-196 | 平成2年 | | 菅波 |
| 女体神社 | 川柳町5-284 | 大正9年 | | 菅波 |
| 久伊豆神社 | 大成町1-2159 | 明治12年 | | 池田 |
| 日枝神社 | 相模町6-481 | 昭和56年 | | 池田 |
| 稲荷神社 | 恩間新田559 | <不明> | | 林 |
| 大道神社 | 大道95 | 天保13年(1842) | | 森田 |
| 香取神社 | 大松115 | 昭和49年 | | 加藤 |
| 香取神社 | 大吉1055 | <不明> | | 野村 |
| 川崎神社 | 北川崎107 | 安政2年(1855) | | 加藤 |
| 久伊豆神社 | 蒲生1-712 | 昭和53年 | | 菅波 |
| 香取神社 | 増森4232 | 慶応1年(1865) | | 池田 |
| 香取神社 | 大沢3-13-38 | 文政2年(1819) ^{跡の下に狛・1匹} | | 竹谷 |
| | | 宝曆6年(1756) | | 竹谷 |
| | | 天保6年(1835) | | 竹谷 |
| | | 安永9年(1780) | | 竹谷 |
| 市神神明社 | 越ヶ谷本町8-10 | <不明> | | 宮川 |
| 久伊豆神社 | 越ヶ谷1700 | 享保7年(1722) | | 宮川 |
| | | 文政10年(1827) | | 宮川 |
| 中島諏訪神社 | 中島1-56? | 平成5年? | 池田・中村 | |
| 大聖寺 | 相模町6-442 | <不明> | | 加藤 |

☆越谷市内で、この他に狛犬がありましたら、ぜひお教えくださいよう、お願いいたします。

「越谷市内の狛犬」訂正について

1. 新しい「狛犬」の発見

浅間神社(所在 越ヶ谷1579 製作年 平成9年 調査者 竹谷)

したがって「狛犬の総数は41匹」になりました。

2. リスト中の「香取神社(増森)」を「香取神社(増林)」に訂正。